

高校ではどのような活動をしていましたか？

英語スピーチコンテストで東日本大震災についてスピーチをしたのですが、そこで国際交流や海外への情報伝達が大切と思ったことをきっかけに、留学への憧れが高まり、高校1年の冬より1年間、カナダのノバスコシア州へ留学をしました。ここでは、英語で授業を受けることはもちろん、アートや演劇なども学びました。それ以外にも、雄大な自然の中、野外キャンプで現地の子供たちのサポートをするボランティア活動への参加や、世界各国から集まった留学生たちと交流を深めるなど、多くのことを経験してきました。

帰国してからも、留学で得られた語学力や発想力をさらに高めていくため、ビジネス・学術英語や国内外の社会情勢について学ぶ毎日でした。

早稲田大学社会科学部を志望し、「全国自己推薦入学試験」で受験しようと思ったのはなぜですか？

オープンキャンパスに参加した時、先輩方がどんなことにも全力で取り組んでいる姿が輝いて見えたことが、早稲田大学に憧れるきっかけとなりました。私自身も留学を軸に、語学や社会情勢について考えることに必死に取り組んできましたが、高校在学時に詳しく学ぶ機会がなかった政治や経済、数学についてももっと勉強したいという気持ちもありました。特に社会科学部は、英語学位プログラムを導入するなど積極的に国際化に取り組み、政治や経済など興味のある分野を学際的に学べる環境です。そこにとても興味を持ちました。留学や語学検定の経験が活かせる入試があることもとても魅力的でした。

実際に社会科学部に入学してみて、どう感じていますか？

社会科学部では、政治や経済など7つの分野の多彩な科目群があります。さまざまな分野に挑戦することで、興味の幅が広がりました。自分が成し遂げたいことに打ち込める環境が整っています。もともと政治の授業を中心に履修していましたが、いまでは経済や統計、教育分野に関心があります。英語学位プログラムの授業も履修し、英語でも経済学を学んでいます。また、今では海外文献を参考に経済や教育をテーマにデータ分析をすることにも挑戦中です。いつも何かに挑戦できる、それが社会科学部だと思います。

現在、力を入れて取り組んでいることは何ですか？

放送研究会の活動に取り組んでいるのですが、特に早稲田祭で行うイベントの運営やそれに向けた準備に力を注いでいます。大隈講堂前ステージでは、パフォーマンス全体が円滑に進むよう出演するグループや舞台演出をする皆さんとの連携をメインとした活動をしています。会場が一体となって盛り上がっている様子を目にした時には、大きな達成感を得られました。また、塾講師をしていて、子供達の心理をより深く理解したいと考え、教職の授業を履修しています。指導する立場として話し方を学んでいき、ゼミナールで専攻している統計を駆使するなどしながら、物事をしっかりと相手に伝える技術を身に付けていきたいです。

将来の目標は？

留学してきた経験を活かし、日本と世界の国々を発展に導いていく国際貢献活動に携わってみたいです。これまで、ボランティア活動や塾講師などで多くの子供達に携わってきました。私自身も、子供達からたくさんのことを学んできたのですが、特に子供達の「わかった!」や「できた!」といった時の顔を見ることが大好きで、そんな表情を見るたびにいつも感動させられます。その顔をこれからも見守っていくため、みんなから慕われる人物になれるよう、さまざまなことに挑戦し続けたいと考えています。

これからの受験生へ向けて、一言お願いします。

自分のしたいことが見つけられる場所が早稲田大学であり、その中でも社会科学部はしたいことを自分で選択していくことができます。高校時代の今、楽しめること、頑張れることがあれば、精一杯打ち込んで欲しいと思います。しかし、何かに打ち込んできた人には、その過程で別の何かを諦めてきた経験があるのではないかと思います。社会科学部なら、自分が新しくやりたいことや今までやりたかったことにも挑戦できます。全国自己推薦入試は、そのようにひとつのことに集中して打ち込める皆さんだからこそ、自信を持って望めるものだと思います。ぜひ皆さんも高校生活で素晴らしい経験をしてきてください。

Interview

やまぐち はるな
2016年度入学 **山口 春菜さん**
YAMAGUCHI, Haruna
浦和学院高等学校 卒業

